

第9回ふる協福祉部会議事録

日時:令和7年3月16日(日)午前10時から11時30分

場所:松葉近隣センター2階 調理実習室

出席者:敬称略(所属町会名・自治会名は省略しました。)

平山(ふる協副会長兼福祉部会長)、野田(民生委員・児童委員)

飯野(民生委員・児童委員)

「町会・自治会選出委員」瀬能、鈴木、祖一、荒井、堀江、白石、右
深井、篠田、常田、高橋

「議事」

【1】令和6年度の成果と反省

- ① 七夕まつり:参加者 500名 短冊(松葉3校、高齢者サークルなど)
- ② ふるさと夏祭り(来賓の接遇)
- ③ 障がいのある方の体験:車椅子、白杖体験
- ④ 福祉政策(居場所作り)、親子ケーキ作り
- ⑤ 松1小、松2小学校とのコラボ(もじもじ登校見守り、まち探検、支援学級餅つき、どんぐり拾い、折り紙遊び、給食体験(教室にて))
- ⑥ 文化祭・芸能祭にて車椅子体験、シニアカー体験
- ⑦ 新年交流会(1月13日)福祉部会からは、7名参加
- ⑧ まつば座談会(10月18日)参加者55名
- ⑨ ネットワーク会議(9月30日)

【2】情報交換・意見交換・質疑応答

- ① 民生委員・児童委員(野田さん)(飯野さん)

- ② いきいきセンター（漆原さん）
- ③ 次年度への引継ぎについて（平山部会長）
- ④ その他意見交換

【3】令和6年度の福祉部会を顧みて（全員発言）

（1）荒井さん＝①部会に参加して地域活動の重要性が良く分かった。

②松中などの不登校が多いのには驚いた。

③座談会は勉強になった。出された意見のフィードバックが大切と思う。

（2）瀬能さん＝「まち歩き体験」は子どもと一緒に楽しかった。自分たちの時代より伸び伸び、いきいきしている。

「自分で考え、友達同士で教えあっている（ワークショップ）は教育の素晴らしい成果と感激した。

車椅子などを体験して身近な問題として実感した。ハーブランド勉強会（栄養・食事）も有益であった。

（3）深井さん＝福祉部会の活動していく重要性を理解できた。

（4）鈴木さん＝七夕まつりは盛り上がり楽しい思い出作りになった。

（5）篠田さん＝イベントにはこれからも協力したい。

町会長から各部会の活動が伝わってこない。町会の住民に伝わってこない。町会長で情報が止まっている。

（6）祖一さん＝七夕まつりは、ヨーヨー、カキ氷があって大人も子どもたちも楽しんできた。

白杖・車椅子は貴重な体験であった。一隅を照らす企画が素晴らしい。

（7）常田さん＝部会の活動を町会に知らせる手段がない。町会長にも直接

には伝わらない。イベントと部会の結びつきが町会住民に理解されていない

(8) 飯野さん＝障がいのある方の日常を体験出来て貴重であった。

松1小、松2小の「まち探検」は盛り上がった。

(9) 野田さん＝まつば座談会に主役の子どもたちがいなかったのは残念。

(10) 白石さん＝七夕の準備、運営、後片付けは見事なチームワークであった。

新年会に出席してほかの町会の方と交換できて良かった。

(11) 高橋さん＝七夕まつりをはじめチームワークが良かった。

(12) 堀江＝①部会出席率が非常に良かった。②和やかな雰囲気の中で、意見交換が活発であった。③こどもの居場所、障がいのある方、虐待、ヤングケアラーなどの未解決の個別施策がこれからの課題と思う。④不登校、未登校児童の問題、虐待、発達障害などを行政、専門家、コミュニティースクールと協力して考えたい。⑤孤独死（特に男性に目立つ）対策が永遠の課題。ある町会では1ブロック（24世帯）で3か月間5名の訃報があったがうち3名が一人住まい男性であったのは象徴的、興味を持ってもらえるセミナーなどの企画が必要。

⑥町会としては、ふる協に使われているという被害意識ではなく、ふる協をうまく利用するという考え方に切り替えればよいと思う。

【4】令和6年の福祉部会を振り返って（アンケート）

○：白石さん：福祉部会参加は非常にタメになった。

学校との関わりでいえば①将棋、②日本史は教えることができます。

現役勤務中ではありますが、時間が合えばご協力します。

白杖体験、車椅子体験も良かったと思います。

私も地域の方々と何かの形で結びついていきたいと思っています。

○Aさん:福祉とは何をするのかと思っていましたが、七夕祭りなど楽しいことが多かった。高齢者社会には、身近にも問題が多いのを再認識しました。私自身も出来ることを出来る範囲で協力していきたいと思っています。

○Bさん:福祉部会は何をしているのか分からず、不安でいっぱいでしたが、参加するごとに内容が少し分かってきました。次期役員に引き継いでいきたいと思っています。

とても勉強になり、学校の大変さ、地域との関わりの重要性も初めて知ることができました。有難うございました。

○Cさん:「障がいのある方の体験」「小学校の連携」が印象に残り、今後も続けてもらいたいと思います。今年の役員さんは真面目で本当によかったです。

○Dさん:今年一年、七夕から始まってまつば座談会まで部員の協力のもと終えることができ良かったです。一年間の活動の感想を申し送りしていきたいと思っています。

○荒井さん(エステコート)一年間いろいろな行事に参加できてよい経験ができました。子育て中は自分のことで手一杯でしたが、これからは地域にも目を向けて出来ることをお手伝いをしていきたいと思っています。一年間有難うございました。

○Eさん:白杖や車いす体験を通して障がいのある方のお気持ちやサポーターのやり方を学ぶことができました。

七夕や夏祭りは近年の酷暑を考えると、主宰者側の体調面のサポートも考えて運営する必要があると思います。

ふる協部会で得た知識、体験を町会に伝えていくのが難しい。町会は町会活動でいっぱいになっているので、活動報告をしても「そーなんだ」というだけです。

○Fさん：一年間いろいろなことを学べました。感謝です。

○Gさん：散歩中に子どもたちが登下校の行きかえりに「おはよー」「僕の家知ってる?」「気をつけて帰ってね」などなど声を掛け合うことで元気をもらっています。 あいさつは気持ちの良い、心のコミュニケーションです。

○：高橋さん（7丁目）白杖、車椅子体験はとても有難かったです。たくさんの方が体験していただけると良いと思います。（一般住民の方にも）

居場所づくりは宣伝をもと積極的にやっていけばよいと思います。

○：堀江（3丁目） 副協各部会の決議事項、活動状況を各町会住民に知ってもらうことが不足していると思いました。

現代は、それぞれの方が個別具体的な悩みを持っておられるので「一隅を照らす」施策が大事だと思います。たとえば、ヤングケアラー、虐待。シェルター、不登校、不登校・未登校、精神的に悩んでいる児童・生徒さん、などです。

居場所でのおはなし相手、ユーチューブなどスマホ遊び居場所など特徴をアピールすれば入りやすいかもしれません。

「まつば座談会」への子どもたち参加は学校と協力して進めていきたいです。

「学校探検」「子ども見守り」に気楽に参加して、「開かれた学校」を実感してほしいと思います。関連団体、主務のサークル、地域事業者、老人クラブなども接触を持ち、ウイングを拡げたいと思います。

今年度の福祉部会は出席率がよく、熱心に議論しておられました。

最終回会議にお願いしたアンケートも建設的なご意見が多く感動しました。

これからは、福祉部会経験者（OB/OG）として一緒に地域活動をしたいと思っております。メルマガなどで呼びかけさせていただいたときにはご参加をお願いいたします。

一年間、有難うございました。これからも在野のサポーターとしてご活躍されますようお願いいたします。

福祉部会長 平山裕子